

11 学生のキャリア形成支援活動（4 類型） — 特徴の比較 —

以下の表は、学生のキャリア形成支援活動（4 類型）の主な特徴を一覧表にまとめたものです。各タイプの特徴に関するより詳しい内容については、**産学協議会2021年度報告書「産学協働**

		タイプ1： オープン・カンパニー	タイプ2： キャリア教育
主な特徴	①目的	個社や業界に関する情報提供・PR	働くことへの理解を深めるための教育
	②代表的ケース (主に想定されるもの)	企業・就職情報会社や大学キャリアセンターが主催するイベント・説明会	<ul style="list-style-type: none"> ●大学等が主導する授業・産学協働プログラム（正課・正課外を問わない） ●企業がCSRとして実施するプログラム
	③就業体験	なし	任意
	④参加期間 (所要日数)	超短期（単日）	授業・プログラムによって異なる
	⑤実施時期	時間帯やオンラインの活用等、学業両立に配慮し、学士・修士・博士課程の全期間（年次不問）	学士・修士・博士課程の全期間(年次不問)。但し、企業主催の場合は、時間帯やオンラインの活用等、学業両立に配慮
	⑥取得した学生情報の採用活動への活用	不可	不可

★(e) 情報開示要件：タイプ3の実施にあたり、募集要項等に、以下の項目に関する情報を記載し、

- ①プログラムの趣旨（目的）、
- ②実施時期・期間、場所、募集人数、
- ③就業体験の内容（受入れ職場に関する情報を含む）
- ④就業体験を行う際に必要な（求められる）能力
- ⑤インターンシップにおけるフィードバック

- **タイプ1～4は学生のキャリア形成支援に係る取組であって、採用活動ではありません。**
学生は採用選考活動開始時期以降、改めて採用選考のためのエントリーが必要になります。
- **タイプや基準の詳細のほか、インターンシップ実施の際の体制整備、安全、災害補償の確保、ハラスメント対応、労働関係法令の適用、受け入れ時の公平性等の確保等の 留意事項は、3省合意をご確認ください。**

による自律的なキャリア形成の推進」の33～45ページをご覧ください。

類型	
タイプ3： 汎用的能力・専門活用型インターンシップ	タイプ4（試行）： 高度専門型インターンシップ
就業体験を通じて、学生にとっては自らの能力の見極め、 企業にとっては学生の評価材料の取得	就業体験を通じて、学生にとっては実践力の 向上、企業にとっては学生の評価材料の取得
企業単独、大学等が企業あるいは地域コンソーシアムと連携 して実施する、適性・汎用的能力ないしは専門性を重視した プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ●ジョブ型研究インターンシップ（博士課程学生を対象に文科省・経団連が共同で試行中） ●高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称)(産学協議会で検討中)
必須 ★（a）就業体験要件 学生の参加期間の半分以上を越える日数を職場での就業体験に充てる (テレワークが常態化している場合は、テレワークも「職場」) ★（b）指導要件 就業体験では、職場の社員が学生を指導し、インターンシップ終了後、学生に対しフィードバックを行う	必須
★（c）実施期間要件 (i)汎用的能力活用型は短期（5日間以上） (ii)専門活用型は長期（2週間以上）	<ul style="list-style-type: none"> ●ジョブ型研究インターンシップ：長期（2カ月以上） ●高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ（仮称）：検討中
★（d）実施時期要件 学業との両立の観点から、「学部3年・4年ないしは修士1年・2年の長期休暇期間(夏休み、冬休み、入試休み・春休み)但し、大学正課および博士課程は、長期休暇に限定されない	—
採用活動開始以降に限り、可	採用活動開始以降に限り、可

ホームページ等で公表してください。

- ⑥採用活動開始以降に限り、インターンシップを通じて取得した学生情報を活用する旨（活用内容の記載は任意）
 ⑦当該年度のインターンシップ実施計画（時期・回数・規模等）

- ⑧インターンシップ実施に係る実績概要（過去2～3年程度）
 ⑨採用選考活動等の実績概要※企業による公表のみ

出典：「産学で変えるこれからのインターンシップ」（採用と大学教育の未来に関する産学協議会作成）

3省合意文書



採用と大学教育の未来に関する
産学協議会ホームページ

